

輪番就労アンケートに協力、ありがとうございました
8日半で輪番一巡。

1,884人が回答。3,100人の 60.8% 期間中の飛び番号を除けば、回収率 97.8%

5月 17日から輪番が一巡した 26日まで、アンケートに協力して頂いた。ありがとうございました。

アンケートの最後に「要望や希望」を書いてもらった。一人で一つの要望を書いてあるものが多かったが、一人で二つ、三つ、書いている人もいた。特掃・仕事関連の要望をまとめたものが下の表。全体では、499記入があった。

特掃の継続・拡大に関するものが最も多く、一般的に仕事の要望を書いたものと含めると、433 記入があり、記入全体の 86.7%を占めている。

特掃を取り巻く状況は、多くの要望の声とは逆に、うかうかしていると、来年 4月からは月一度の就労ということになりかねないほど厳しい。国予算確保をめざして、これから半年が正念場。要望の声を基礎に、要求実現に取り組む。

要望 特捜関係

特掃の継続・拡大 377人	1日の定数を300人以上に。 2005年度の特掃継続。	1
	「特別就労」の予算枠の大幅増加	1
	55歳以上は仕事がないので特掃を継続して欲しい	1
	あと3年継続してほしい	2
	長く続けて欲しい	14
	仕事を増やして欲しい	204
	特掃を月4回に	38
	特掃を月5回に	27
	特掃を月6回に	15
	特掃を月7回に	2
	特掃を月8回に	27
	特掃を月10回に	18
	特掃を月12回に	7
	特掃を月12回以上に	1
	特掃を月13回に	1
	特掃を月15回に	4
	特掃を月16回に	3
	特掃を月20回に	5
	特掃を月24回に	1
	特掃を毎日	3
アルミ缶収集はきつい割にお金にならない 特別清掃が月8回あればなんとかしのげる	1	
現金仕事は年齢的にほとんどいくことができない。 特別清掃が週2回あればなんとかなる	1	

その他 14人	就労時間を長くして賃金を上げて欲しい	4
	賃金を上げて欲しい	4
	紹介時、窓口でもう少し行き届いた説明をして欲しい	1
	特掃の仕事で本当に助かっている	1
	特掃の仕事は社会のためになるしい環境になる	1
	生活保護受給者の特掃利用は遠慮してもらいたい	2
	認定所持者・生活保護者は特掃に就かすな	1

要望 仕事一般

66人	仕事したい	9
	仕事欲しい	38
	現金仕事が増えてほしい	3
	いろいろな仕事回してください	1
	NPOの仕事あれば利用したい	1
	国・市などがもっと高齢者に対する仕事を増やしてほしい	1
	職安の雇用年齢を65歳まであげてほしい。 本職があっても現金仕事でも年齢が違うだの"人間差別"ではないですか	1
	賃金が安くてもいいから60歳以上の仕事を増やして欲しい	1
	年齢が60歳で仕事がないの何かもっと仕事がしたい	1
	高齢者の就職先を紹介するような機会をつくってください	1
	体が悪くて高血圧のため普通の職場が無理	1
	障害者の仕事がほしい	2
	資格について今後、パソコン、ヘルパー2級の設置を希望します	1
	自動車免許を使いたい	1
	大工仕事があればしたい。3年前酒屋の店舗を作りまた	1
	内職でもあれば	1
	住居がないので就職できない	1
ハローワークで求職しても相手にされない。 ホームレス支援事業をもっと拡大してほしい	1	

**生活(居宅)保護＝卒業希望は63.6%にあたる1,199人。
毎日三食 食べられているのは506人、27.8%にすぎない。**

仕事の拡大要望も多いが、それを上回って希望が多かったのが、生活保護を利用することであった。1,884人の内1,199人が生活保護利用を希望している。

生活保護希望が多いのは、希望とは裏腹に仕事によっては生活できない現実があるからだ。アンケートの回答者の内三度三度の食事をとれているのは、506人にすぎない。1,317人は、満足に食べることができない状態にある。

身体の調子も、万全でないものの方が多い。「身体に不自由なところがありますか」の間に回答がなかったものを体調万全と見なしても608人にすぎない。項目には直接内科的な項目がなかったので、実際に体調万全なものももっと少ないと思われる。

寝場所についても、困窮する現実を数字で示している。野宿についての回答は、1,608人。その内、「野宿したことはない」の回答は、246人(15.3%)。もっとも多いのが「時々する」で861人(53.5%)、「ずっと野宿」は501人(31.2%)。

釜ヶ崎支援機構は、野宿生活者が抱え込まされている課題の解決は、第一に就労の拡大によっておこなうべきであると主張している。働くことで収入を確保し、食や安定した居所が確保できることが、多くの野宿生活者の要求でもあると信じている。残念ながら、就労拡大は足踏み状態で、多くの仲間が、路上で命つきる危険にさらされている。だからこそ、多数が、緊急避難的に生活保護の活用を望んでいるのだ。

緊急避難的生活保護の活用も、望むものが全て実現できる状況にはない。利用したいと回答したものの内562人は、60歳以下。希望とは別に特掃で頑張らざるを得ない。彼らが、三食食べられるようにするためには、卒業できるものは卒業を！

「身体に不自由なところがありますか」に対する回答

無記入	1項目	2項目	3項目	4項目	5項目	6項目	7項目	8項目	記入計
608人	557人	283人	148人	94人	70人	52人	35人	37人	1,276人
32.3%	29.6%	15.0%	7.9%	4.0%	3.7%	2.8%	1.9%	1.0%	67.7%

1週間のうちの欠食日数

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	計
18	67	60	15	9	2	2	173
10.3%	38.7%	34.7%	8.7%	5.2%	1.2%	1.2%	100.0%